

横浜港神奈川地区多目的国際ターミナル整備事業 【事後評価】

平成18年9月11日

国土交通省 関東地方整備局

評価対象事業



①金沢地区木材ふ頭岸壁【事後評価】

<整備内容>
・岸壁改良
(耐震強化)

<事業期間>
平成9～13年度



②神奈川地区出田町ふ頭岸壁【事後評価】

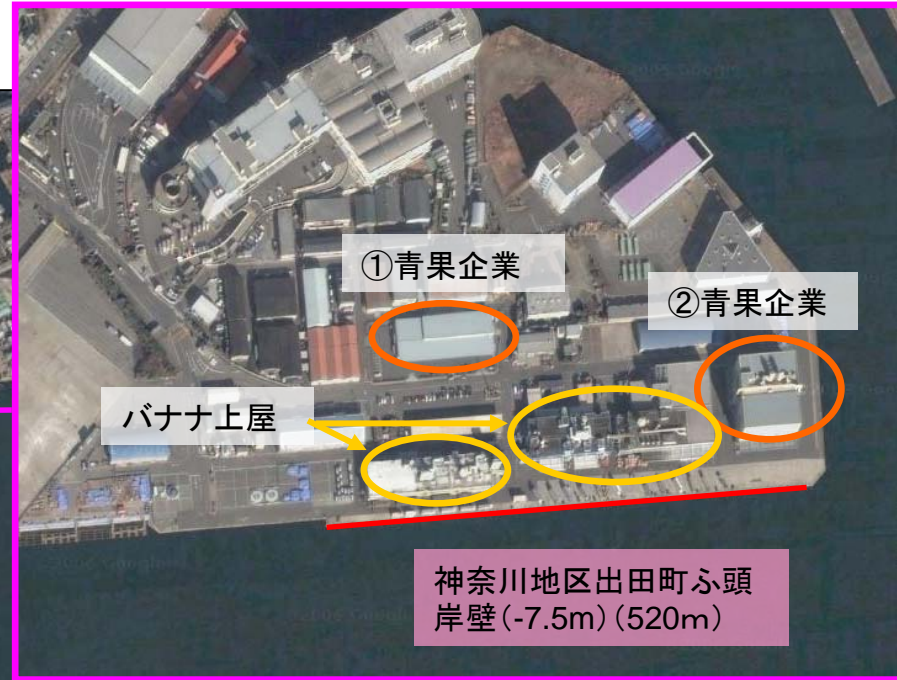
<整備内容>
・岸壁改良
・ふ頭用地整備

<事業期間>
平成2～13年度



神奈川地区出田町ふ頭岸壁の概要

- ・S27～S39に公共用岸壁として整備。現在は主に野菜・果物(主にバナナ)を取り扱う。
- ・岸壁直背後にバナナ専用上屋、青果上屋や青果企業があり、横浜港のバナナの陸揚げはほとんどのこの岸壁で行っている。



- ①: デルモンテフレッシュフルーツ
- ②: 上組青果センター

【青果のながれについて】

バナナ、パインなどは、冷蔵船で船積みされ品質確保のため最短ルートで輸入される。

入港後、倉庫に運び込まれ、温度、湿度、果肉温度を24時間体制で管理される。

倉庫を経由後、隣接した企業の加工所で熟成加工(黄色くする)などが行われる。



品質確保の観点から倉庫近隣に企業の加工所が立地している。

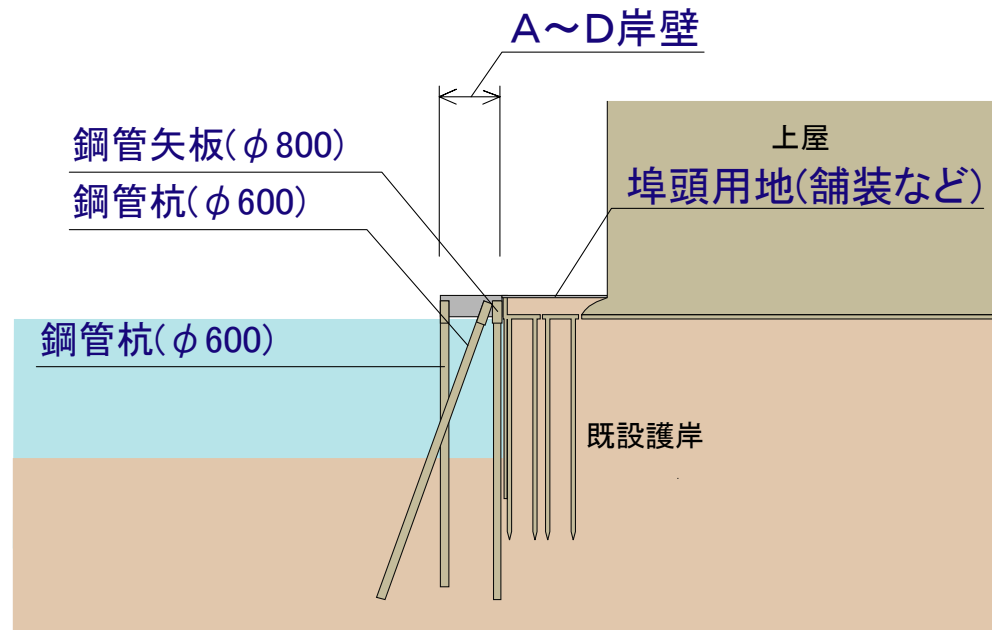
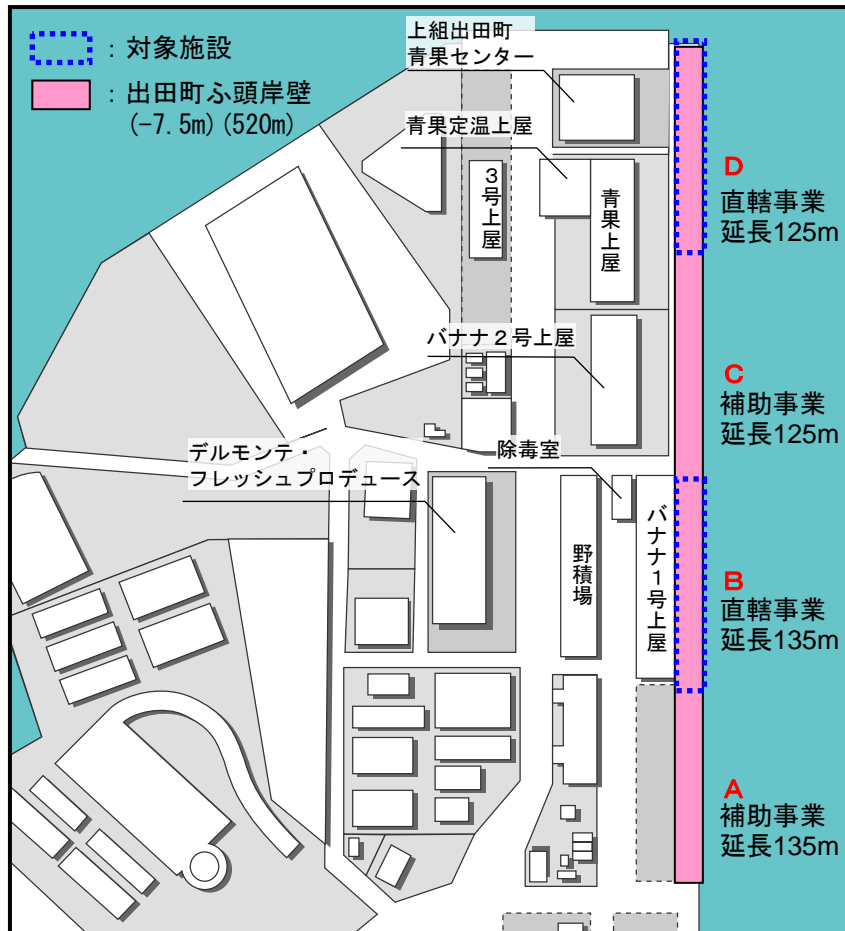
店頭へ出荷

出田町ふ頭で陸揚げされる貨物の約80%はバナナ、パイン等であり、隣接する上屋等に運ばれる。

出田町で取り扱われるバナナは日本全国のバナナ輸入量の約15%を占める。

事業の概要

- ・ 出田町ふ頭岸壁はS27～S39に整備され、供用後50年近く経過し老朽化が顕著
- ・ 平成2～13年度で、利用調整を図りながら順次岸壁の全面改良とふ頭用地の舗装打替等を実施
- ・ 事業費:約39億円



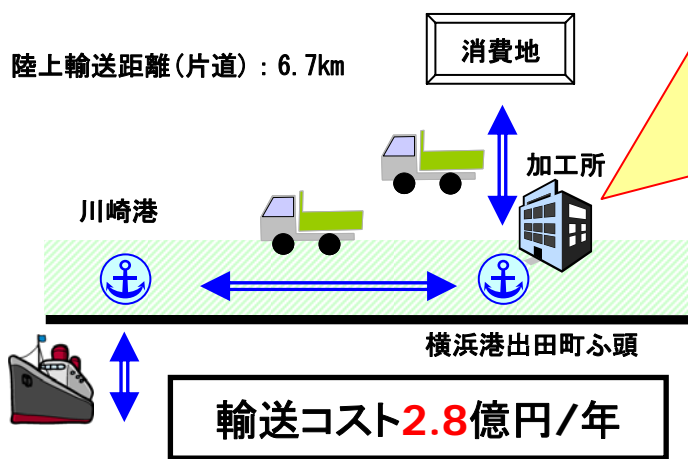
事業の効果

【輸送コストの削減】

- ・岸壁の老朽化対策を行わない場合、代替港を経由して背後企業の加工所に陸送されることとなり、考えられるため、陸上輸送コストが増大すると考えることができる。
- ・その差分を便益とする。

【効果のイメージ】

整備しない場合：近隣港を利用

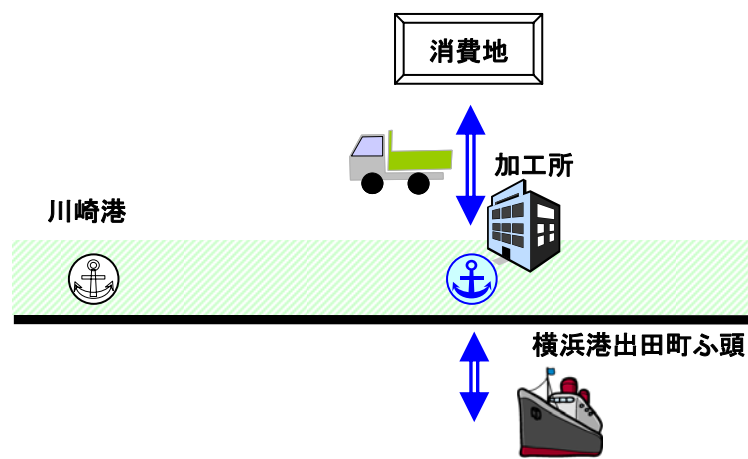


輸入青果は一旦上屋で保管し、企業の加工所で加工する



近隣港で荷揚げした後、一度出田町ふ頭へ陸送する必要あり

整備した場合：横浜港を利用



費用対効果分析結果

<評価の前提>

- ・基準年：平成18年
- ・評価期間：供用開始後50年間(H14～H63)
- ・社会的割引率：4%

<費用便益分析結果>

項目	費用・便益(社会的割引後)
便益合計(輸送コストの削減)	92.6億円
費用合計	59.9億円
費用便益比(CBR)	B/C=1.5

事後評価のまとめ(1)

①事業の評価

横浜港神奈川地区(出田町ふ頭岸壁)多目的国際ターミナル整備事業は、事業完了後一定期間が経過したため、事後評価を行った。

- ・B/Cは、神奈川地区については1.5と算出され、投資効率性のある事業であることが確認された。
- ・神奈川地区は事業完了後、現在も十分な利用が図られており、有効に利用されていることが確認された。

以上のことから、事業実施の効果があったことが確認された。

事後評価のまとめ(2)

②今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

・本事業は、輸送コストの削減等の効果が見込まれ、事業効果が発揮されると判断される。今後、さらなるサービスレベルの向上、貨物利用の促進に努めることとする。

③同種事業の計画・調査のあり方や

事業評価手法見直しの必要性

・今後の同種事業についても、計画的に進め、早期の整備効果発現、目標の達成などに努めていくことが重要である。